



第一線を退き、今やること。やれること。

デザイナーの定年後の姿

私が工業デザインを専攻して、デザイン実務に就こうと勇んでいた時代は、高度経済成長の真ただ中、東京タワーが建設され、東京オリンピックで日本が世界の中心に躍り出て、首都高速道路と名神高速道路そして東名高速道路や東海道新幹線と矢継ぎ早に時代の最先端が誕生し、大阪万国博覧会が模様されようとする時にカーデザイナーを目指しました。世界に追いつけ追い越そうと右肩上がりの前進あるのみの猪突猛進の時代でした。その後の反動で、成熟飽和経済に陥り、公害問題、資源の枯渇など諸問題を生み出してしまい、一旦立ち止まって今までを顧みることを求められました。

まだその時代では、インハウスデザイナーで定年を迎えるような人は誰も存在せず、定年後のことなど頭の隅にもありませんでした。いつまでも企業戦士ではなくなり、さて何をするのだろうと、周囲を見渡してもどこにも第二の人生設計のモデルはありませんでした。

そうして今その問題に直面する年齢になりました。幼少のころから絵を描くことが好きで、趣味として日曜画家のような余生も思い描く程度でした。平均寿命も伸び体力的にもまだまだ余力を持っています。せっかく積み上げて来たキャリアを生かしたいと思っていました。

今から10年ほど前のことですが、中部デザイン協会の創立60周年記念事業として、初の試みで海外研修ツアーがあり、隣国韓国を訪れました。最初に訪問したのは、釜山デザインセンターでした。エントランスの壁に「Design is All All is Design」と掲げられてありました。「すべてはデザインに始まり、何事もデザインに終わる」。デザインはすべてのことに関わりを持ち、全てのことにはデザインが必要なのだと解釈しました。今まで悩んだり、考え巡らしていたことが一気に解決し目の前が急に晴れ渡りました。

「ローカルコミュニケーションデザイン」という言葉との出会い

私はカーデザイナーに始まり、教員としてプロダクトデザインを主にしながらデザイン全般を教えてきました。今、職業としてのデザインに関わることから離れて、地域を見渡してみるとデザインの経験を活かしながら地域貢献できるのではないだろうかと思うようになりました。今こそデザインマインドを駆使して地域に恩返しができるのだと確信を抱きました。

先般「ローカルコミュニケーションデザイン」という言葉を耳にしました。これが残された人生の中で取り組む課題と位置付けていくことにしようと思っています。

これからは「ローカルコミュニケーションデザイナー」と名乗ることにします。

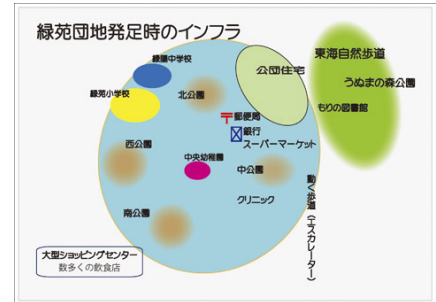
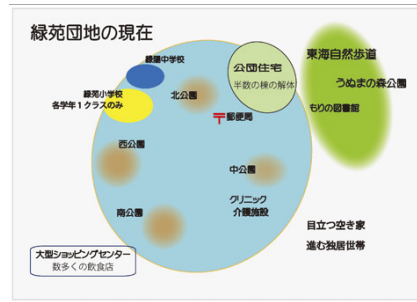
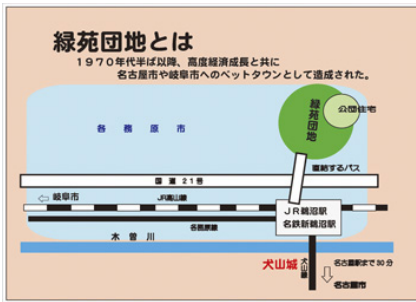
そんな考えで地域を眺めてみると、全くの新興団地で、歴史的遺産・史跡など注目を集めるものは何もありません。強いて財産と呼べるのは緑豊かな環境だと思っています。まず手始めに団地内で水彩教室を開催し、小学校の授業の補佐も行い、地域のまちづくり行政に少しずつかわりを持つようになりました。今のところは、各務原市全体にまで活動の幅を広げるまでには至っていませんが、まず足元から取り組んでいきます。

その活動の一端を紹介します。

世代を超えて創る「リョクエンナーレ」を開催しよう。!!

リョクエンナーレのネーミングについて

この緑苑団地「リョクエン」と「ビエンナーレ・トリエンナーレ」を合わせた造語です。



緑苑地区社協の誕生

地域の身近な諸問題の解決を行政に頼らず、自らの手で解決していくボランティア団体。

家屋を地域に寄付。

自主的に緑苑地区社協を立ち上げる動き。

憩いの家「ふらっと」を自主運営。

100円コーヒーを提供。

運動不足と認知症予防に貢献。

いろいろな教室を開設し集う場としての機能の充実。

しかしながら、高齢者ばかりしか集まらず、次世代への繋がり場の場として役割を果たし切れていない。

「ふらっと」は年寄りの通う施設という固定概念がささやかれています。

本当の意味で緑苑地区の活気を呼び起こすには、世代を超えた絆が必要になります。



リョクエンナーレの誕生

緑苑内には、素晴らしい技術や才能を持っている方々の存在。

(例えば各務原市民美術展の審査員が日本画、染織、デザインなど計り知れないマンパワーの存在。)

だから「ふらっと」も運営できている。

でも、例えば5年先、10年先どうなっているだろう。

素晴らしい技術や才能を埋没させることなく、若い世代と共に手を携え、「ふらっと」(緑苑地区社協運営)や緑苑小学校などの空き教室を活用して、世代間交流のワークショップなどを実施展開して、今なら間に合うでしょう。

市からの助成金をいただける制度を紹介され、一気に実現へ向かった。

基本方針

親子ワークショップまたは祖父母と孫とのワークショップを展開して、世代を超えた繋がりが形成される取組としたい。

- ① 内容によっては外部指導者のレクチャーを受けるが、直接的な指導者は、緑苑団地の住人が前面に出て指導に当たる。
- ② ワークショップ等で制作した作品は、基本的に制作者が持ち帰るため、材料費等を加味して参加費を徴収する。
- ③ 特殊な材料費等については、実施予算(参加費)から捻出する。
- ④ 外部から講師指導を受けることも想定されるので、その経緯費は実施予算から捻出する。
- ⑤ 基本指導担当者(緑苑の住人)はボランティアで協力してもらう。
- ⑥ 単年事業に終わらせず、毎年実施していく。

初年度の実施内容(助成対象講座)の紹介

①「光る風鈴」



②「ソープカービング」



③「型染によるコースターづくり」



④「オリジナルマグカップづくり」



課題

市からの助成は、3年間の継続が義務付けられ、3年目には助成金支給はありません。その間に自主自立して継続運営できる体制の構築を求められている。また自主財源を確立させなければなりません。リョクエンナーレは、ボランティア活動です。参加費を比較的安価（ワンコイン）に設定して気軽に参加してくれることを願っています。ワンコインでは内部留保はできません。

団地内での「リョクエンナーレ」の認知度アップを図っていくには、自治会の協力・理解が必要になります。自治会組織はコミュニティの骨格で基本的な機能（ハード）を担っています。その機能に豊かさや生き甲斐など（ソフト）を醸成させているのが、緑苑地区社協であったり、リョクエンナーレであったりしていると思います。

助成対象外で内部留保できるようなワークショップの計画を進める。

「折り紙でリース&木目トレイで絵馬づくり」で、参加費200円でも、材料などの諸経費が派生しないメニューを考案しました。そしてささやかな内部留保の積み重ねる工夫を今後も実施していきます。

もうすぐ楽しい クリスマス・お正月
折り紙でリース& 作りましょう!!
木目調トレイで絵馬
どなたでも参加できます。



参加費 200円

材料などすべて準備します。

12月14日(土) 10時~

ふらっとにて

参加申込は ふらっと (058-322-6579)

へお願いします。

お子様は保護者を通じて「ふらっと」へ
主催：リョクエンナーレ実行委員会
後援：緑苑地区社会福祉協議会

金と銀の折り紙で
クリスマスとお正月のリース作り



学校行事「緑苑まつりゴーゴGO」への協力要請

緑苑小学校では、コロナ禍で卒業式、入学式、運動会をはじめとする学校行事の取りやめ、保護者も授業参加など一切なく、全く味気ない心豊かな教育が展開できず困っていた。

そんな折に岐阜県現代陶芸美術館(多治見市)が実施している「学校美術館～学校に美術館がやってくる!」事業に応募しました。令和2年度11月開催の「緑苑まつりゴーゴGO」実施に際して、岐阜県下の小中学校から1校を選定して実施される事業に選定されました。

「リョクエンナーレ」にも協力要請がありました。





「ウッドバーニング」ワークショップ

同時に、地区の子供会からも相談を受けました。コロナ禍で例年の子供会行事ができず、「リョクエンナーレ」でワークショップをして欲しいとのことでした。

三密を避けるため、2班に分けて集合時間もずらしながら計画をしました。

流行っているキャラクターの下絵を持ち寄るなどして、楽しいでもらいました。

この作品も「緑苑まつりゴーゴGO」で展示させていただきました。祖父母にも孫の作品を堪能していただきました。



西村 知弘

中部デザイン協会事務局長
三軌会会友
金沢美術工芸大学同窓会会長
各務原市市民美術展審査員
可児市美術展審査員

1946年石川県金沢市生まれ。1969年金沢美術工芸大学卒業。
愛知機械工業株式会社入社。車輛デザインに従事。
1976年愛知県高校教諭として愛知県立愛知工業高等学校
デザイン科にて教鞭をとる。その後教頭職を拝命し、31年間の勤務を経て退職。